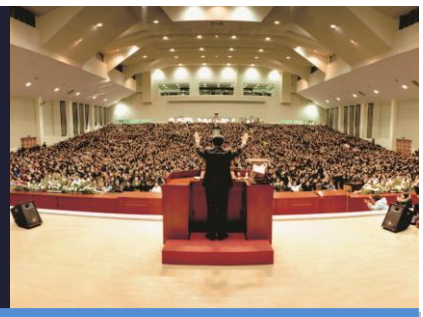
第 2018-10 号

恵みと真理のニュース



2018 年 3 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

人生の苦しい節目ことに助けてくださり、主に用いられる人生の最高の幸福を享受しながら生きるように導いてくださる神様に感謝と賛美を捧げます

私は結婚する前から長い間脊柱即腕章をわずらてよく憂鬱で人を信じられない性格でした。ところがイエス様を信じた後、そんな性格が１８０度変えました。顔も明るくなり積極的な性格に変えました。知らない人にも先に近づいて声をかけたり、伝道するようになりました。神様の恵みでこのように変化されました。
私はイエス様を信じない家庭で２男１女の中で一人娘で生まれ育ちました。結婚して　忠清南道コンジュで新婚生活をしました。旦那もイエス様を信じない人でした。結婚生活はあまりよくなかったです。生活が苦しくて旦那が酒好きでたまには暴言をして生きるのが苦しくて辛かったです。そうする中で旦那の知人の勧めでアンヤンで引越しをしてきました。引越しパーティで旦那の職場同僚の夫婦が参席しましたが、恵みと真理教会に通う聖徒でした。彼らは熱心に私たちの夫婦を伝道しましたが私たちは福音に耳を傾けませんでした。ところが、ある日、私たちの家族が練炭ガスに中毒される事故が起きました。田舎で行きながら、冬に台所で木で火を燃やしたが、初めて練炭ボイラを使用した私たちは練炭ガスがとても怖いことを知るようになりました。夜に家族４人が共に練炭ガスを吸収して　生死の境をさまよったです。次の日４時になって皆気がついて生き残るようになりました。病院にいく状況ではなかった私たちはただ、時間が過ぎたら大丈夫だろうと過ぎました。ところが、私と末息子は時間がたつほど状態が悪くなり、結局息子は脳損傷による発達生涯の判定を受けました。
旦那の職場の同僚の夫婦がもっと積極的に私たちを伝道しました。私だけしかたなく数回教会をついて行って終わりでした。時間が立った後、私たちの家の近くに住む区域長も来られて自分の家で捧げる区域礼拝に私を強く連れて行きました。その日、驚くことに祈る時間私が聖霊洗礼を受けていげんをするようになりました。私だけでなくそこで集まった聖徒たちすべてが驚いてびっくりしました。しかし、私は聖霊の賜物を受けてもそれが尊くて感謝することすらしなかったです。礼拝をおろそかにしたら結局、賜物もなくなり神様に対する疑いも酷くなりました。
区域がリバイバルして二つに分けた後、新しい区域長がよく訪問して来られ私の信仰を励ます話をよくしてくださいました。私も区域長に私も神様をよく信じたいですが、神様に対する疑いがあって苦しくていげんで祈りをしたいができないので切ないと言いました。すると、区域長は神様の恵みを愛し切ない心で説教の御言葉を聴いて断食して期間を決めて祈りをしようと勧めました。
　４０日　断食祈りを決心してはじめてから３７日目になる日、今まで食もたれるようないつも胸を押しつくすのが瞬間になくなった気がしていげんで祈りをするようになりました。すると、世が依然とまったく違うように見えました。私の目ですべての世がきれいで美しく光る姿に見えました。私の心が幸せで充満なりました。息子を特殊教育をする学校につれて行かれるため忙しい中でも熱心に礼拝を捧げ信仰生活に最善を尽くしました。区域長の職分を受ける前も区域長の職分を受ける前も区域長祈り会に参席して涙を流して神様に感謝を捧げるほど多くの恵みを受けました。
今も初めて神様に十一献金を捧げるたことを忘れません。与えてくださる恵みと愛に感謝し始めて十一献金を捧げた日、私は神様に私の心を共に捧げ泣き叫びながら祈りました。苦難の中で神様に捧げ献身するのも神様が与える大きい恵みであり、悟りでした。今、私たちは経済的で豊かでないですが、謝金もなく生活の大きい問題がなく生きています。神様に十一献金を捧げる生活をはじめた以後、私たち家族は生活をするのにあまり苦しみもないようにさまざまな模様で助けてくださいました。
私が教会に通うのを許可してくれた旦那は私が礼拝中心の生活をすると迫害をしました。ある日は、旦那の友達が私の家に来て旦那とお酒を飲みながら私に問いました“夫が好きですか？イエス様が好きですか？としました。私は“イエス様は私たちの人と比較できない方です。”言うと夫もイエス様も好きです。”と答えました。すると、旦那が座った場で私に酒を振掛けました。
ある日は、仕事が大変で私に怒って当り散らしてか私の頭をひどく殴って出勤することもありました。私はとても悔しかったです。信仰生活もまもない状況でどのように祈るのもよく知らなくて私は親に話すように文句言いながら神様に話しました。“神様！私が旦那に頭を殴られ私の心が傷つきました。私を殴った旦那の手が折れて過ちをしたのを悟るようにしてください。と祈ったらその日、夜旦那が外で手を折れてギブスをしたまま帰宅しました。私はあまりにも驚いてすぐ神様に悔い改めました。神様を信じて人がむやみに考えたり話したり祈ったらいけないということを学びました。
　神様は大きくて小さい恵みを多く与えてくださり、栄誉ある区域長の職分をくださいました。区域長のはじめにはこのような経験もしました。区域礼拝を捧げる前、新しく来られた方が急に体が痛くてその場で倒れました。瞬間戸惑いましたが、私たちは彼のため共に神様に祈るとすぐ自然に起きました。
私が十代の時一番の兄が二十一歳の若い歳に心不全で死にました。その時、私は愛する家族が急に離れたことに襲撃を受けてしばらく、病気になって倒れているほど悲しかったです。私はイエス様を信じた後、母を伝道するため母を私の家で仕えました。母はよく寺に行って食堂のことを助けるほどの偶像崇拝をしました。私たちの家でいる間神様の恵みが望んで母がイエス様を救い主として受け入れ、数年間、信仰生活をよくして平安な顔で神様に呼ばれ天国に召されました。　今は私の娘も熱心に信仰生活をしています。息子も自ら福祉館に通い主日には恵みと真理教会で熱心に神様に礼拝を捧げています。聖書御言葉を習い神様に祈るのを誰よりも好きで家でよく賛美を歌います。いつもより神様に対する信仰と愛が私より優れていると思い私の信仰生活を反省しました。旦那はまだ、イエス様を信じなかったですが、好きだった酒をやめて６０歳になると必ず教会に行くと約束をしました。私たちの家で完全に家庭礼拝を捧げるその日を望みながら、旦那が早く魂が救われて主の中で福ある生活をするように祈っています。
私は毎週の木曜日の朝早く教会に行って区域長たちが恵みと真理ニュースを気軽く持て行かれるようにニュースを分類して集めてかごに入れる奉仕を７年目しています。私はこのことが楽しいです。集まって区域礼拝を捧げる聖徒達の顔が浮かんで楽しくて、区域長たちが熱心に伝道する姿と福音ニュースを読む時に恵みを受けてイエス様を信じる人ができのを考え幸せを感じます。
神様は私に特別に“しかし、わが名を畏れ敬うあなたたちには／義の太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように／躍り出て跳び回る。”（マラキ書　３：２０）という御言葉を貼って息子と区域の病弱な聖徒と家族のため祈ります。私の魂を救ってくださり人生の　苦しい節目ことに助けてくださり、　主に用いられる人生の最高の幸福を享受しながら生きるように導いてくださる神様に感謝と賛美を捧げます。“主よ　愛します。”“マラナタ！”

［信仰コラム］

主を待ち望む者は幸いである

"...主は公平の神でいらせられる。すべて主を待ち望む者はさいわいである。"
（イザヤ 30:18）

サミュエル・ベケットが書いた ' ゴドーを待ちながら ' という戯曲のように人は希望を持って自分なりの何かを待ちながら生きますが、実は、無意味で空しいことを待ちながら生きるだけです。これが神様を知らない人生です。しかし聖徒達はそうではありません。聖徒達の待ちは明白で各個不動な対象に対する待ちであります。聖徒達の一生は神様に向いた期待と待ちで点綴されます。全ての聖徒が一様に待ち望む中で代表的なことをいくつか列挙してみます。
第一、聖徒達はイエスキリストの来られることを待ち望みます。
聖書に約束された通りにイエスキリストが罪人のために贖いの死を死なれるためにこの世にお越しになり、結局十字架につけられて死なれました。しかし、死亡権勢に勝たれお墓から蘇られ、その事実を 40 日にかけて弟子達見せてくださいました。その後、弟子達が見るなかで焦点なさいました。白い服を着た二人の天使が弟子達に " ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう " と言いました。新約聖書ヨハネの黙示録 22 章 20 節に復活なさったイエス様が天の座で使徒ヨハネに " しかり、わたしはすぐに来る " と言われる時、使徒ヨハネが " アァメン、主イエスよ、きたりませ。" と答える場面があります。イエスキリストは必ず再び来られます。
第二、聖徒達は復活の日を待ち望みます。
イエスキリストの再臨の目的の中で一つが聖徒達が復活するようにすることです。復活に関して記録された御言葉を探して読んでみると驚くべきで珍しいです。" ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。"、" すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。" 復活した体がいかなる体であるかに関しても啓示されています。
第三、聖徒達は新たな空と新たな地そして、新たなエルサレム城を待ち望みます。
聖徒達が永遠に留まる所は人の罪悪とどん欲によって破壊されて汚染されたこの地ではありません。聖書に次のように記録されています。" わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。"。" 夜は、もはやない。あかりも太陽の光も、いらない。主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。"。
第四、聖徒達は日常的な生活に神様の助けを待ち望みながら生きます。
神様は聖徒達の日常的な生活にも助けを約束なさいました。お祈りする人は神様に向いて待ち望みながら生きるようになります。多く求める人は神様の助けを待ち望むのが多くなります。神様に向いて待ち望む人は忍耐があるべきです。神様に求めたが、期待した通りに成らなくても挫折
してはいけません。神様の考えは私達の考えより偉大です。神様を期待する聖徒に最も良い時、最も良い方法で、最も良いことで応答してくださいます。
誰でもイエスキリストを信じて生まれ変わるとその日から以前には持つことができなかった奇異で新たな期待と待ち望みの生活が始まります。神様の品性と言約なさった御言葉に対する知識が多くならばなるほど期待感と待ち望みも増加します。神様に向いて期待して待ち望む聖徒に次のような御言葉が約束されています。" それゆえ、主は待っていて、あなたがたに恵を施される。それゆえ、主は立ちあがって、あなたがたをあわれまれる。主は公平の神でいらせられる。すべて主を待ち望む者はさいわいである。"

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

祈りなさい そして行動せよ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

祈りは、神のあわれみと助けを求める方法として、いくら強調してもすぎることはありません。祈りだけで神の応答を受ける場合があります。しかし、祈りしてから、行動をする場合があります。聖書には、祈りとともに行動が従うことを教訓する劇的な事件が多く記録されています。今日はその手本になる二つの事件を見てみましょう

第一は、アブラハムが見せてくれた例です。

アブラハムはメソポタミアからカナンに移住したときにロトを連れて行きました。年月が過ぎて、アブラハムとロト、二人が所有して獣の群れが多くなりました。それゆえ羊飼いの間に紛争が生じた。アブラハムは、決断を下し居住地を互いに離れて移動することにしました。ロトはヨルダンを選択して行きました。そして徐々にソドムまで天幕を移しました。アブラハムはヘブロンに天幕を移しました
多くの日が過ぎた後、「カナンの南北戦争」が起こりました。北方の四国が連合してケドルラオメル王の指揮の下、ソドム、ゴモラをはじめ、死海の沿岸の 5 同盟国の王を攻撃しました。激戦の末、ケドルラオメル連合軍が勝利して、ソドムとゴモラのすべての富を奪取して、そこに住んでいる人々をとりこにしました。このうち、アブラハムの甥ロトとその家族もいました。アブラハムは家で育てた 318 人の訓練された装丁や近隣の町の人々の協力を得て遠くダンまで追撃しました。兵力を分け、夜間奇襲を敢行してケドルラオメル連合軍を撃破しました。アブラハムは、すべての富を取り戻し捕虜になっていた人々を救い出しました。もちろん、ロトとその家族も救い出しました
この時、アブラハムの年齢は 84 歳と推定されます。年が過ぎでも 318 人の装丁を率いてメソポタミア 4 カ国連合軍を相手にして作戦は無謀な行動や相違ありません。それにもかかわらず、アブラハムが少数の人々を動員してロト救い出す作戦を敢行したのは、ロトの愛情と併せて、神の助けを確信している信仰があったからです。軍事の数や武器の優秀性も重要だが、神を恐れる人には、神が自分と一緒におられるかそうでないかがもより重要です。人の力は問題の解決には到底に及ぶことができなくても、全能の神の助けが加えたら奇跡的な勝利を得ることになります。「祈りなさい。そして最善を尽くして行動する。神が助けてくださる。」これは、アブラハムが見せてくれた教訓です

第二は、モルデカイとエステルが示した手本です。

ユダヤ人たちは、偶像に仕えた結果、神の罰を受けて紀元前 586 年、バビロンに滅亡されて捕虜になって連れて行かれました。紀元前 538 年にバビロンがメディヤとペルシャ（バーサ）の征服者に落ちました。旧約聖書エステル記に記録されたユダヤ人撲滅の危機の話はアハシュエロス王がペルシャを治める時の出来事です。

エステルは幼いごろ親を失っていとこ兄モルデカイによって養育された。モルデカイはペルシャ王室の門番でした。エステルは選ば手続きを経て、ペルシャの王后となった
エステルが王妃になってから 4 年後、モルデカイとユダ民族が絶滅の危機におかされました。アハシュエロス王の信任を受けた大臣ハマンは宮殿の門を出入りするとき、すべての人がひざましておじきすることにしました。ところがモルデカイだけがハマンにおじきしないました。ひざましておじきすることというのは、神の崇拝態度だからでした。ハマンはけしからん心を抑えずモルデカイだけでなく、彼の民族であるユダヤ人を絶滅させることを決めてアハシュエロス王にユダ民族を訴えました。 **「そして ハマン は アハシュエロス 王に 言った， 「お國の 各州にいる 諸民のうちに， 散らされて，別れ 別れになっている 一つの 民がいます． その 法律は 他のすべての 民のものと 異なり， また 彼らは 王の 法律を 守りません． それゆえ 彼らを 許しておくことは 王のためになりません．もし 王がよしとされるならば，彼らを 滅ぼせと 詔をお書きください． そうすればわたしは 王の 事をつかさどる 者たちの 手に 銀一万 タラント を 量りわたして，王の 金庫に 入れさせましょう 。」**
ハマンはアハシュエロス王の印が押された調書をおのおの国に送られました。 12 月 31 日に、ユダヤ人、老若男女を全滅させて財産もすべて脱取するように指示しました。民族絶滅の危機におかられたことを知ったモルデカイとユダヤ人たちは、断食しながら大声で泣きました。モルデカイは王妃エステルに王の前にいきユダ民族のために訴えようと願いしました。ペルシャ帝国は王の呼び出しを受けずに、宮の内に進むと地位の上下を問わず、死刑に処しようしました。しかし、王が金のホルを差し出すと命を維持することができました。エステルは重大な決心をした後、モルデカイにたよってを送られたのです。 **「あなたは 行って スサ にいるすべての ユダヤ 人を 集め， わたしのために斷食してください． 三日のあいだ 夜も 昼も食い 飲みしてはなりません． わたしとわたしの 侍女たちも 同様に 斷食しましょう．そしてわたしは 法律にそむくことですが 王のもとへ 行きます． わたしがもし 死なねばならないのなら， 死にます 」**としました。
王妃エステルは **三日目に エステル は 王妃の 服を 着， 王宮の 内庭に 入り， 王の 廣間にむかって 立った． 王は 王宮の 玉座に座して 王宮の 入口にむかっていたが，王妃エステル が 庭に 立っているのを 見て 彼女に 恵みを 示し， その 手にある 金の ヴ を エステル の 方に 伸ばしたので， エステルは 進みよってその ヴ の 頭にさわった王は彼女に 言った， 「王妃 エステル よ， 何を求めるのか． あなたの 願いは 何か． 國の半ばでもあなたに 与えよう 」エステル は言った， 「もし 王がよしとされるならば，きょうわたしが 王のために 設けた 酒宴に，ハマン とご 一緒にお臨みください** ハマンは二度にわたる王妃の宴に招待を受けて楽しく宮殿の門を出て来てはモルデカイがおじきしていないのを見て気持ち悪かった。彼は家に戻ってモルデカイのため処刑台を設置しました。
一方、その日の夜、アハシュエロス王は眠れなかったので、臣下を命じ歴代日記を読みました。書記官は王を警護する二り臣下がアハシュエロス王を謀殺する陰謀を企てモルデカイが告発して危機を免れた事実に関する記録を読みました。王はモルデカイになんの報いも官職も与えられていないことを知りました。王はすぐに臣下を呼びました。その時王宮内にハマンが来ていました。王がハマンに質問しました。

「やがて ハマン がはいって 來ると 王は 言った， 「王が 榮譽を 与えようと 思う 人にはどうしたらよかろうか 」． ハマン は 心のうちに 言った， 「王はわたし 以外にだれに 榮譽を 与えようと 思われるだろうか 」
王がハマンにモルデカイにそのようなしろと指示しており、ハマンがそのまま行しました
王妃エステルは二日目のごちそうを施し、王の心を楽しませました。王は再びエステルの願いを聞きました。エステルは初めての要件を言いました。「**王妃 エステル は 答えて 言った，「王よ， もしわたしが 王の 目の 前に 恵みを 得， また 王がもしよしとされるならば，わたしの 求めにしたがってわたしの 命をわたしに 与え， またわたしの 願いにしたがってわたしの 民をわたしに 与えてください。わたしとわたしの 民は 賣られて 滅ぼされ，殺され， 絶やされようとしています． もしわたしたちが 男女の 奴隷として 賣られただけなら， わたしは 默っていたでしょう． わたしたちの 難儀は 王の 損失とは 比較にならないからです 」．アハシュエロス 王は 王妃 エステル に 言った， 「そんな 事をしようと 心にたくらんでいる 者はだれか． またどこにいるのか 」． エステル は 言った，**
エステルが単刀直入に答えました
「そのあだ， その 敵はこの 悪い ハマン です 」． そこで ハマン は 王と 王妃の 前に恐れおののいた． 王は 怒って 酒宴の 席を立ち， 宮殿の 園へ 行ったが， ハマン は殘って 王妃 エステル に 命ごいをした． 彼は 王が 自分に 害を 加えようと 定めたのを見たからである 王が 宮殿の 園から 酒宴の場所に 歸ってみると， エステル のいた 長いすの 上に ハマン が 伏していたので， 王は 言った， 「彼はまたわたしの 家で， しかもわたしの 前で 王妃をはずかしめようとするのか 」． この 言葉が 王の 口から 出たとき， 人は， ハマン の 顔をおおった．
結局ハマンはモルデカイを処刑しようと立たせておいた処刑台で殺されました。王はモルデカイが王妃のいとこ兄という事実を知ることになると、さらに彼を寵愛しました。そして、ハマンに与えた王の指輪を収めモルデカイに与えました。
王は、エステルの願いを承諾して、ユダヤ人たちが、自分自身を守るために自己救済策を講ずる調書を書いて印を押したのを全国に恐怖にしました。そして、ユダヤ人を傷つける人がかえって殺され財産を奪われることになりました。モルデカイは王の次の地位にいることを示して青く白い衣を着て、大きな冠をかぶって紫色の上着を着て、王の前に立ちました。ユダヤ人の皆に栄光の喜びと誉れとなりました。スサ城の市民皆が楽しくしました。

神様は私たちの祈りを聞いてくださいます。そして、私たちが最善を尽くして行動するのを注意深く見られます。私の行動が問題の解決に満たないとしても、祈り、信じて行なえば、神様が憐れんで思われ助けの手を伸ばしていただきます。